

1. 高度医療人キャリア形成教育研究推進プログラム

事業参画大学間の連携プログラムとして実施したものには【連携】を付した。各プログラムの成果については、実施大学のホームページ等に詳細が記載されている。なお、プログラム名に（*）を付したものについては別添の資料が提出されている。これらについては、本事業のホームページの資料あるいは各実施大学のホームページ等でご参照いただきたい。また、参画大学からの事業報告の中で、本事業の主な5つのアドバンスト教育研究プログラムとしても報告があるものについては、プログラム名と簡単な概要を取り上げた。

【2020年（令和2年）度】

1) 学部生、大学院生を対象としたプログラム

<千葉大学>

○ 病院実務実習における専門職連携実習（亥鼻IPE・Step5）（2015年度開始）

- ・ 附属病院での病院実務実習のアドバンスト教育として、同時期に臨床実習を行っている医学部・看護学部学生との病棟での診療参加型専門職連携実習を約3日間行った。

<富山大学>

○ 「薬学経済」（*）

- ・ 学部生、大学院生を対象として、薬学経済をテーマに、本学卒業生の中からさまざまな職種にて活躍している方々が講義した。

◇ 履修学生：学部生・大学院生 70名

○ 薬都とやま未来懇談会（*）

- ・ 薬系卒業の進路として可能性のある業種について説明会を実施した。
- ・ 今年度はオンデマンドでの実施を行ったが、参加者が多く盛況であった。

閲覧人数：約200名、コメント数：約250件、参加企業数：34社）とかえって、例年より盛況であった。学部生、大学院生を対象として、薬系卒業の進路として可能性のある業種について説明会を実施した。

◇ 参加企業数：34社、参加人数：延べ約500名、オンデマンド閲覧人数：約200名、コメント数約250件

<静岡県立大学>

○ 多職種連携演習（IPE教育）

- ・ 学部生対象を対象として、静岡県立総合病院・静岡済生会病院と協力し、薬学部・看護学部・食品栄養科学部が連携した多職種連携演習を行った。

- 地域防災演習
 - ・学部生を対象として、COC事業の一環で静岡地震防災センター及び静岡県立大学にて薬学部と看護学部との合同で防災種連携演習を必修科目として実施した。
 - ・ふじのくに防災マイスター養成講座を受講し、ふじのくに防災マイスターを取得することができる。
- 防災講習会
 - ・学部生を対象として、地域防災演習を受講しふじのくに防災マイスターの資格のある学生が高校生の防災意識を高めるために、防災に関する講演や避難所のシミュレーションゲームなどを行った。
- 静岡救命連携演習
 - ・学部生を対象として、必修科目としてBLSプロバイダーコースを学内で開催し、医療者として必要な1次救命処置を身に付け、国際的資格を取得するための演習を実施した。
- AED講習会
 - ・学部生を対象として、早期体験学習及び静岡救命連携演習の発展カリキュラムとして、高校生や地域の方を対象にAED講習会を実施した。静岡救命連携演習でBLSの資格を取得した学生と教員により指導を行った。
- 静岡県薬事課意見交換会
 - ・静岡県薬事課職員、薬局・病院薬剤師、5年次生が参加して、薬剤師業務に関する意見交換会を開催した。
- 大学院特別講義
 - ・大学院生を対象として、年3回、学外の著名な研究者を招聘して研究の最前線に関する講義を開講した。
- 薬学講座
 - ・学部生（1～5年生必修）及び大学院生を対象として、薬害被害者の講演と創薬研究で顕著な成果を挙げた研究者をそれぞれ招聘し、体験談を交えた講演会を行った。
- 月例セミナー
 - ・学部生及び大学院生を対象として、年6回、学外の著名な研究者を招聘して研究の最前線に関する講義を開講した。
- 静岡県立大学薬学部・病院・地域薬局連携薬物療法研修会
 - ・現場薬剤師、大学院生及び学部生を対象に、年4回、処方医などから薬物療法の実践的内容及び処方意図を学習する研修会を開催した。
- 静岡3大学連携講義（大学院：フロンティア科学特論）
 - ・東海大学、静岡大学及び静岡県立大学の3大学連携大学院講義「細胞マイクロ環境から全身の生命活動を理解する～細胞科学研究最前線～」をオンラインで実施した。講師は3大学の教員と外部講師が務めた。本学からは25名の大学院生と教員が参加した。

<名古屋市立大学>

○ 改訂コアカリに対応した新しい医療人教育の開発と実施 **(*)**

- ・改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムへの対応として、新しいより効果的な薬剤師の実践臨床能力開発の研修を実施した。

<京都大学>

○ 多職種連携プログラム

- ・1年次生を対象として、夏季休暇中に多職種連携医療体験実習を実施した。
- ◇ 参加人数：薬学部21名、医学部医学科108名、医学部人間健康科学科24名
- ・4年次生を対象として、後期集中講義として「医療安全学」を開講し、医学部の学生と合同で、医療者間コミュニケーション、患者とのコミュニケーション、医療事故の分析についてSGDを行うことで、医療人として必要な医療安全に関する理解・関心を深めた。
- ◇ 参加人数：薬学部11名、医学部123名
- ・1年次生を対象として、夏季休暇中に医学部の学生と合同で医療現場の動画による学習と、オンライン（zoom）での医療現場との対話や質疑応答を行った。実習終了後にはオンラインでの事後ワークショップを行い、チーム医療の重要性を学習した。
- ・4年次生を対象として、医学部の学生と合同で、医療者間コミュニケーション、患者とのコミュニケーション、医療事故の分析についてSGDを行うことで、医療人として必要な医療安全に関する理解・関心を深めた。

<岡山大学>

○ 全国学生オンラインワークショップ

- ・「社会に求められる薬剤師としての力」というテーマで、オンライン（Zoom）のブレイクアウトルームセッションを行い、高度医療人としてのキャリアについてディスカッションを行った。
- ・オンライン形式での開催であったが、活発な討論が行われた。

○ 薬学研究部門

- ・1年次生、2年次生を対象として、研究職、教育研究職あるいは、Pharmacist-Scientistな、研究を必須とする職業のキャリア志向を醸成するために、研究室の単なる見学ではなく、研究（実験）を実体験させる演習を実施した。

○ 厚生労働省及びPMDAオンライン見学会（主幹校主催プログラム） **【連携】**

- ・学部生及び大学院生を対象として、厚生労働省及びPMDAに将来の進路として、もしくはその業務に興味がある学生に薬事行政の現場を見学する機会を提供し、学生の薬事行政への関心を高めることを目的として企画・実施された。
- ・それぞれの担当者からの業務概要の説明と質疑応答により、医薬品・医療機器の承認審査等に関わる機関でありながら、両者の業務の違いに関する理解を深め、薬系技官としてのキャリアややりがいについて学んだ。

<広島大学>

○ 患者志向型合宿勉強会

- ・学部3年生を対象とした勉強会について、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、例年の合宿型勉強会を中止し、広島で開催された薬害根絶フォーラムへの参加に切り替えて実施した。

○ キャリアセミナー

- ・学部生及び大学院生を対象として、薬学出身者の多様な進路を紹介するために、企業、行政、病院、薬局など幅広い分野の方をお招きしての講演会、企業ブースや展示、就職相談会、情報交換会を2日間開催した。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、オンラインでの開催となった。

○ 手術室見学実習

- ・学部生を対象として、手術室における薬剤師業務を知るために、麻酔科教授ならびに手術室担当薬剤師による講義を受けた後に、実際に手術室に入り、その業務を見学した。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、一部オンラインで実施した。

○ 精神科外来実習

- ・学部生を対象として、医師による診断から処方箋作成への流れを知るために、精神科外来診療室での診療への陪席し、必要に応じて医師からの指示による説明書の作成と患者への説明を行い、また精神科入院病棟での担当薬剤師に付き添い、入院時の服薬指導などを体験する実習を行った。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、一部オンラインで実施した。

<山陽小野田市立山口東京理科大学>

○ アクティブラーニング方式による総合医療薬学プログラム (*)

- ・3年次生、4年次生を対象として、必修科目「総合医療薬学1～7」におけるSGDを中心とするアクティブラーニングを取り入れた教育システムの開発を行った。
- ・代表的8疾患に関係したシナリオをもとにした文献調査、グループディスカッションから、発表資料作成、成果報告、質疑応答までの一連を繰り返すことにより、疾病と薬の理解だけでなく、思考的問題解決能力、コミュニケーション能力の醸成を図った。
- ・SDG室とプレナリー室にはアクティブラーニングに相応しい装置として、講堂放送システムなどを設置することにより、より高度の成果が期待できる。

<徳島大学>

○ 第13回「チーム医療入門」 蔵本地区1年生 合同ワークショップ (*)

- ・薬学部、医学部、歯学部の1年生を対象として、「地域包括ケアの実現」というテーマで合同ワークショップを実施した。

○ 第8回学部連携PBLチュートリアル

- ・高学年の薬学部、医学部、歯学部の学生を対象として、チーム医療の実践に必要な能力・資質を身につけさせることを目的として、患者シナリオをもとにグループ討議と自己学習を行いながら問題点を抽出し、プロブレマッピング方式を用いて全人的な視点から問題点の解決法を立案するPBLチュートリアルを実施した。
- ・本年度は、新型コロナウイルス感染症のため、遠隔によるグループワーク・ディスカッションを行った。

○ 2020年度 症例解析総合演習

- ・薬学部6年生を対象として、薬剤師に必要とされる基本的な臨床思考プロセスの修得を目的として、薬学部で履修してきたコアカリキュラム及び臨床実務実習での知識・経験を統合し、模擬症例で設定された課題を薬学的視点から検討する演習を実施した。
- ・本年度は、新型コロナウイルス感染症のため、遠隔による課題提示により行った。

<九州大学>

○ 厚生労働省及びPMDAオンライン見学会（主幹校主催プログラム）【連携】

- ・学部生及び大学院生を対象として、厚生労働省及びPMDAに将来の進路として、もしくはその業務に興味がある学生に薬事行政の現場を見学する機会を提供し、学生の薬事行政への関心を高めることを目的として企画・実施された。
- ・厚生労働省や関連教育研究機関・組織における医療行政やレギュラトリーサイエンスに関するインターンシップ等を開発・実施することにより、最先端の医療や創薬研究を主導できる高度先導的薬剤師の養成が期待できる。

2) その他（大学としての取組等）

<東北大学>

○ スーパージェネラリスト・ファーマシスト・PLUSの養成プログラム

- ・東北大学で取り組んできた高度専門薬剤師養成とスーパージェネラリスト・ファーマシスト養成事業を拡大し、革新的医薬品評価開発支援と高齢化社会の新たな医療を担うハイレベルな薬剤師スーパージェネラリスト・ファーマシスト・PLUSを育成するプログラムを実施した。

○ 東北次世代がんプロ養成プラン

- ・文部科学省が実施する「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン」に東北大学、山形大学、福島県立医科大学、新潟大学が連携する東北次世代がんプロフェッショナル養成推進プランを実施した。
- ・このプランは、第2期がんプロ（正式名：がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン）からの得られた成果からがん医療における新たな課題、ニーズが生まれ、これらの問題に対応すべくプログラムを進める。

○ 東北大学未来型医療創造卓越大学院プログラム

- ・ 医学系、歯学、薬学、生命科学、情報科学、経済学、文学、教育学、医工学に所属する学生が、未来の医療をより優れたものへと変革する人材の育成を目指し、データ (Data) と技術 (Technology) を駆使して未来の社会 (Society) の課題解決に取り組み、超高齢社会である東北地方、日本そして世界の医療・福祉の理想を求めて学習するプログラムを実施した。

<名古屋市立大学>

○ 東海薬剤師生涯学習センタープログラム 公立大学連携薬剤師生涯学習講座 **【連携】**

(*)

- ・ 静岡県立大学と共同で大学が発進する薬剤師職能開発支援向けの研修を実施した (2015年度から開催を継続)。本学学部学生、大学院生も参加 (薬剤師受講は有料、学生・大学院生は無料)。
- ・ 講義は「臨床現場に必要な薬学最新基礎知識」に特化したもので、実習・演習は薬学部の新しい授業を薬剤師向けに活用した研修を実施した。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対応としてオンライン (Zoom) による遠隔受講を採用し、年間のプログラムを感染症の状況を勘案し日程を随時変更しながら全てのプログラムを実施した。
- ・ 3年次生は、授業の一環として基礎薬学演習に薬剤師と一緒に演習を行うプログラムを3回実施し (Zoomによる遠隔演習)、学生は薬剤師としての生涯研鑽の重要性を理解するとともに、参加薬剤師は新しい学習方法の体験とその効果を実感できるプログラムとした。

◇ 2020年度参加者：薬剤師74名、学部学生64名 (延べ)